

千葉大学カレッジリンクによる

“ちば共創都市圏”の

新しい価値観・暮らしスタイル・働き方（しごと）スタイル

提案報告

構 成

1. はじめに ----- 2
2. 提案の方法 ----- 3
3. 提案のまとめ ----- 6

1. はじめに

千葉市では、“ちば” 共創都市圏というコンセプトで、千葉市と周辺都市（市以東、以南を中心に）が有する様々な資源を有効活用、結び付け、市の機能集積や拠点性を最大限生かすことで、「東京」でも「地方」でも得られない、魅力的なライフスタイル、新たな価値観などを周辺都市と「共」に「創」りあげる取組みを始めようとしている。

一方で、千葉大学では、千葉都市圏の活性化を対象とした地（知）の拠点整備事業（COC）と、千葉地方圏の産業振興、若者定着を対象とした地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の両事業を推進しているところで、県内全域の活性化を目標として、それぞれの事業連携を模索しているところである。

千葉大学では千葉市より旧高浜第二小学校の3階の一部を借り受け、サテライトキャンパス美浜（通称：サテキャン）を設置し、この中で“ちば” 共創都市圏に関連する取り組みを進めてきた。また、千葉大学の授業である「カレッジリンク・プログラム」も開講してきた。

また、千葉市の次期基本計画の策定においては、多様な主体との連携をさらに強化することが理念となり、千葉大学「カレッジリンク・プログラム」がその一部に位置づけられた。

これらの経緯から、この度カレッジリンク・プログラムのメインテーマを「“ちば” 共創都市圏構想」とすることにより、授業の中で千葉市の今後の構想を、千葉大学生、市民とともに検討し、提案することとした。

その結果をまとめたものが本提案報告書である。

策定スケジュール



- ・ 2019年度～
 - ▶ 市民参加の各種取り組み
 - ex. ワールドカフェ（公募市民100人による意見交換）
 - まちづくり未来研究所（市民研究員による研究・提言）
 - 団体等提言募集（地域で活動する団体等による提言）
 - カレッジリンク**
 - ▶ 未来検討プロジェクトチーム（庁内WG）
- ・ 2020年度 各種取り組み ～ 計画素案決定（年度末）
- ・ 2021年度 計画原案決定、審議会
- ・ 2022年度 議決、計画策定
- ・ 2023年度～ 次期基本計画スタート

2. 提案の方法

(1)カレッジリンク・プログラムの概要

①千葉大学カレッジリンク・プログラムとは

カレッジリンク・プログラムは千葉大学独自の授業で、学生と地域の市民がともにワークショップ形式で学びあい、地域課題の解決を目指すものである。学生は単位を取得し、市民は千葉大学長名の修了証書が授与されるものである。

②概要

「千葉市」と「千葉地方圏」の地域資源を結びつけ、“ちば”でしかできない、“ちば”ならではの「新たなライフスタイル、しごと・働き方スタイル」について、ワークショップを通じてコンセプトを考え、企画し、それを実現させるための方法を提案する。

(2)プログラム

①プログラム(日時・場所・内容等)

回	日 時	場 所	内 容
第1回	6月22日 (土) 13:00～ 17:00	サテキャン	ガイダンス 1. カレッジリンクガイダンス(含自己紹介) 2. レクチャー「“ちば”共創都市圏構想とは」 堺逸樹(千葉市政策企画課長) 3. レクチャー「千葉市と周辺市の概況」 鈴木雅之(千葉大学国際教養学部准教授) 4. “ちば(都市圏・地方圏)”の強み・弱みワークショップ
第2回	6月29日 (土) 13:00～ 17:00	サテキャン	テーマ1 “ちば”の新しい価値観・暮らしスタイルをつくる【その1】 1. レクチャー「ひとと動くをデザインすると、まちは変えられる。」 深谷 信介(博報堂スマート×都市デザイン研究所長) 2. レクチャー「千葉のシェアスタイルアンケート結果」 鈴木雅之(前掲) 3. “ちば”の価値観・ライフスタイルの提案ワークショップ
第3回	7月6日 (土) 13:00～ 17:00	サテキャン	テーマ1 “ちば”の新しい価値観・暮らしスタイルをつくる【その2】 1. ミニレクチャー「企画づくりの方法1」 鈴木雅之(前掲) 2. 提案内容を実現する方法提案ワークショップ
第4回	7月13日 (土) 13:00～ 17:00	SHI TSU RAI	テーマ2 “ちば”の新しい働き方(しごと)スタイルをつくる【その1】 1. レクチャー「新しい働き方(しごと)のスタイル」 坂本 純子(パクチャー代表) 2. レクチャー「千葉市と周辺の産業としごと」 鈴木雅之(前掲) 3. “ちば”のしごと・働き方の提案ワークショップ
第5回	7月20日 (土) 13:00～ 17:00	サテキャン	テーマ2 “ちば”の新しい働き方(しごと)スタイルをつくる【その2】 1. ミニレクチャー「企画づくりの方法2」 鈴木雅之(前掲) 2. 提案内容を実現する方法提案ワークショップ
事後学習			各グループの提案を企画書(パワーポイント)で提出

②コーディネーター・講師等

○コーディネーター

鈴木 雅之(千葉大学国際教養学部准教授・

コミュニティ・イノベーションオフィス地域イノベーション部門長)

○講師

深谷 信介(博報堂スマート×都市デザイン研究所長)

坂本 純子(パクチャー代表)

(3)受講生概要

全 19 名

- ・千葉大生 11 名 (多様な学部学科、学年)
- ・社会人 8 名 (修了証書授与は 6 名、属性は周辺団地住民や起業家など多様)

(4)授業の様子



講師によるレクチャー



提案のためのワークショップ



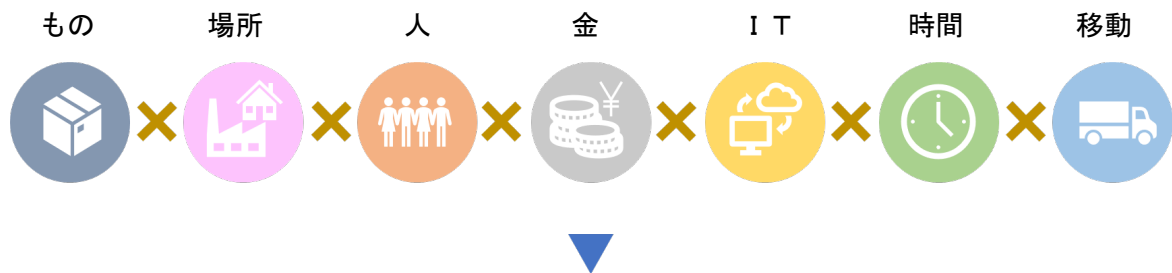
発表プレゼン



提案のためのワークショップ (SHI TSU RAI)

課題

「ちば共創都市圏構想」のコンセプトに立脚し



を組み合わせる

“ちば”でしかできない、“ちば”ならではの価値観・暮らしスタイル
“ちば”でしかできない、“ちば”ならではの働き方スタイル・しごと

を提案すること

その際の共通条件は、

- ①千葉市と周辺市がwin-winになるように提案すること
- ②千葉市と周辺市のエリアを設定し、その特性・特徴からサービスを提案すること
- ③単なる構想だけではなく、実現可能性を追求し提案すること
- ④感覚だけではなく、エビデンスベースで提案すること

3. 提案のまとめ

“ちば共創都市圏”の新しい価値観・暮らしスタイル

提案 A:「行ったり来たり」ライフスタイル

- ・ 関東圏一の長さを有する海岸線を対象に、千葉市を核としてネットワーク化する
- ・ キーコンテンツは、都市部のストレスを解消する「セラピー」「健康」
- ・ サービスバリューは、癒やし、休息、楽しみ、治療
- ・ 移動手段は MaaS、IoT による解決

提案 B:「ハブシティ千葉」構想

- ・ 千葉市以東以南を 7 地域に分け多核拠点化し、それぞれに特色をもたせる
- ・ それぞれの特色は、「アート」「スタートアップ」「AI、IoT」「観光」「6 次化」など
- ・ 特色は SDGs の取組みを組み合わせる
- ・ 地域ごとの価値、ライフスタイルを HUB でつなぎ、多様な選択肢をつくる
- ・ 地域資源を活用し、HUB 機能を発揮するスペースを開発する

提案 C:つながる千葉 つながるライフスタイル 千葉から新しい価値を

- ・ 空き施設をライフスタイルがつながる Base につくりかえる
- ・ Base には、マルシェ、コワーキング、サテライトオフィス、託児所などを配置
- ・ 子供を媒介としてつながるライフスタイル・サービスの提案

提案 D:スポーツのある暮らし

- ・ オリパラを契機したスポーツのある暮らしの提案
- ・ スポーツへの興味、習慣をつくり、市民の健康増進につなげる

新しい価値観・暮らしスタイルに必要なキーコンセプト

- ・ 拠点プラスネットワーク
- ・ 多様なライフスタイルの提示による選択肢
- ・ 多様な価値観・ライフスタイルを受け止める、つなげる HUB 機能
- ・ 地域資源「空き施設」「人材」の活用
- ・ 移動手段(MaaS)の開発

新しい価値観・暮らしスタイルに必要なキーコンセプト 解説

●拠点プラスネットワーク

千葉市とつなぐ周辺市町に戦略的な拠点を形成する。戦略的とは、「どこに、何をテーマにした拠点化を図るか」であり、明確なテーマとターゲット設定、そして、それに向け限られた資源の集中的な投下が求められる。また、テーマに応じて、県内に複数の拠点を形成（多核拠点化）することが構想され、特色化された複数の地域と千葉市がネットワークされていく。これらの多核拠点化とネットワークを千葉市が中心となって推進していく。

推進にあたっては、周辺市町との強固なパートナーシップとネットワークを構築することが重要である。千葉市と複数の市町とで構成されるネットワークにおけるさまざまなプロセスは、事業を進めるにあたっての創造性を最大限に引き出すものとなる。

●多様なライフスタイルの提示による選択肢

住む・暮らす・過ごす・学ぶ・楽しむ、などの場面において、生活者の価値観や行動は多様化され、それらのスタイルに対する場当たり的な商品やサービスの提供はされている。しかし、生きる価値を高めようとする、よりコアな生活者に対しての「地域一体」での対応は十分ではない。

ちば共創都市圏構想は、地域で生きる価値を高める仕組みに地域を編み替えられるイノベーションが可能である。複数の地域ごとにそれぞれ特色あるライフスタイルを設定し、千葉で生きるための多様な選択肢を多拠点で提供し、人の流れを変えていく（吸収していく）ことが重要となる。

●多様な価値観・ライフスタイルを受け止める、つなげる HUB 機能

HUBとは、中心機能があり、そこから多方向に手が伸び、多様な価値観・ライフスタイルをもつ生活者と結び付く新しいアプローチの手段である。この機能を千葉市が持ち、広範囲に、ひと・もの・ことを受け止める。

HUB機能は、周辺市町とともに多様な価値観・ライフスタイルを提供し、生活者がそれらにアクセスするための地域の拠点となる。また、生活者と千葉市をむすびつけるだけでなく、地域ブランディングや地域の活性化など周辺市町との協働事業をむすびつけることもHUB機能の役割となる。

HUBの提供側は、地元の人々、多様な組織や団体、公的機関など多様な関係者などパートナーシップで構成する。

●地域資源「空き施設」「人材」の活用

空き施設は、空き店舗から空き公共施設まで、規模は異なるものの、周辺市町に多く発生している。その地域の地元の中心施設として愛されてきた空き施設は、新たな用途にコンバージョンされ、活気のある拠点に生まれ変わった事例もでてきている。今後と

も、人口減少や少子化の中で、空き施設が発生してくるトレンドにあり、事業推進にあたっては、このような施設を活用することを前提とする。

また、地域の最大の資源は、その地域の人材である。地域のために何かをしたい、何かに関わりたいという人材は、実は多くいる。その関わりしろがなかったり、関わり方が分からなかったりしているだけなので、ちば共創都市圏構想は、そのような人材のための関わりしろ（地域に関わるための余白）を提供しながら推進する。

●移動手段(MaaS)の開発

ちば共創都市圏構想で連携を図ろうとする市町は、公共交通の機能が脆弱である地域が少なくない。千葉が「東京に近い」ということを、優位性の一つと考えるのであれば、交通機能である移動手段を向上させることが重要である。

大規模なインフラ投資は期待できないため、MaaS の概念を取り入れた移動手段を開発していくことが必要になる。MaaS（マース：Mobility as a Service）は、自家用車以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念である。

新しい価値観・暮らしスタイルは、まさに「新しさ」を提供するものであるもので、これまで隘路（ラストワンマイル問題など）となっていた、地方へのひとの流れを閉ざさない取組みが必要となる。この取組みは、周辺市町が独自事業として進めるべきものであろうが、ちば共創都市圏構想の枠組みの中では、一体的かつシームレスにつないでいく必要がある。

“ちば共創都市圏”の新しい働き方(しごと)スタイル

提案 A:ちばを Co-Work する

- ・仕事を効率化し、空いた時間で自らの興味、可能性を広げる
- ・千葉市での勤務と周辺市での勤務をパッケージ化し、パラレルワーカーとなる
- ・地域間でワークシェアするという考え方

提案 B:”しごと”を創る仕事

- ・千葉市を拠点とした農業シンクタンクをつくり、周辺市とコンサル、マッチングする
- ・有機農業と花卉産業のブランディングとビジネスモデルにより新しい働き方をつくる
- ・千葉市と周辺市のパラレルワークを提案

提案 C:起業家教育がもたらす未来の働き方スタイル

- ・起業家、事業承継する人材をつくりだすための、中高からの教育を仕事化する
- ・これら人材を増やすことにより、地方を活性化させ、将来的な社会の仕組みもつくる
- ・東京への人材流出を起業家教育によって食い止めることもできる

提案 D:ちば県共創都市圏化 「県」から「圏」へ

- ・千葉市以東以南を4地域に分け、それぞれに働き方の特色をもたせる
- ・それぞれの特色は、「国際」「あぐり」「IT」「スポーツ」
- ・自分のスタイルにあった地域で働けるよう、スタイルを提示していく

新しい働き方(しごと)スタイルに必要なキーコンセプト

- ・地域間でのワークシェア・パラレルワーク
- ・未来への投資としての起業家、事業承継人材育成事業
- ・多様なワークスタイルの提示による選択肢
- ・周辺市と協働するシンクタンク機能

新しい働き方(しごと)スタイルに必要なキーコンセプト 解説

●地域間でのワークシェア・パラレルワーク

複数の人で一つの仕事をシェアするワークシェア、一人の人がいくつもの仕事に関わるパラレルワーク（副業、複業）が徐々に社会の中に浸透してきている。それを地域の枠を取り払い、広範囲な地域で取り組む視点も必要になる。

ワークシェアでは、一人の人が時間をマネジメントし、生まれた時間を周辺市町で過ごす時間に充てることができる。パラレルワークでは、千葉市ではこの仕事、周辺市町ではこの仕事、といった2拠点で自分の時間を配分することによって実現する。

いずれも、働き方スタイルだけの提案だけでなく、周辺市町での過ごし方、つまりライフスタイルの新しい価値を連動させるものであり、総合的に新しい価値観・暮らしスタイルを提案することにもつながる。

●未来への投資としての起業家、事業承継人材育成事業

現在の働き方を変えていくだけでなく、未来に向けて新たな働き方を子供たちに植え付けておくという、時間軸にも視点を置いた多次元のアプローチも重要である。社会的に植え付けられ、当たり前と考えられている現在の働き方は、大規模にはなかなか変えられないかもしれない。そうすると、子供の頃からの教育を改革することによって、地方で起業したり、地方企業の事業承継をしたいと思う人材を、今のうちから育成していくことも必要になる。

そのための教育、育成のプログラムを開発し、人材をマインドセットし、輩出する拠点を千葉市につくる。将来的には、千葉市と周辺市町が日本版シリコンバレーのように発展するイメージで、その中心が千葉市となる構想である。

●多様なワークスタイルの提示による選択肢

新しいライフスタイルと同様に、働き方の改革により生きる価値を高めようとする、よりコアな生活者に対しての「地域一体」での対応は十分ではない。

ちば共創都市圏構想は、地域で生きる価値を高める仕組みに地域を編み替えられるイノベーションが可能である。周辺市町のさまざまな資源の効果的な活用をおこない、コア生活者に対する新しいまちの提案である。

多様化する働き方スタイルに対して、複数の地域ごとにそれぞれ特色がある働き方スタイルを設定し、千葉で生きるための多様な選択肢を多拠点で提供し、人の流れを広く変えていく（吸収していく）ことが重要となる。

●周辺市と協働するシンクタンク機能

新たなしごとをつくり出すための「仕組み」がシンクタンク機能である。新たなしごとは、新たな働き方とのセットで提案されることが相乗効果を生み出す。その結果、千葉市と周辺市町の新たな産業の振興に結びつけられる。

ただ、何も無いところからは何も生まれないため、千葉市と周辺市町の資源をマッチング

させ、新産業でむすびつけるシンクタンクの拠点を千葉市に設ける。それぞれの産業のビジネスモデルをコンサルティングし、インキュベートしていく役割となる。

ネットワーク戦略

◆協議会

千葉市と周辺市（地域）ごとに、ちば共創都市圏協議会を設置し、検討する。

◆地域間サミット

各地域の取組事例の共有を図り、地域間同市のつながりを模索する。

プロモーション

◆インナープロモーション

域内の人に理解を促すための、説明会、フォーラムなどのプロモーション事業

◆アウタープロモーション

外部の人を動かすための、マス媒体、WEB、動画などのプロモーション事業

資料1 コーディネーター・講師等の紹介

○コーディネーター

鈴木 雅之(千葉大学国際教養学部准教授・

コミュニティ・イノベーションオフィス地域イノベーション部門長)

建築・都市コンサルタント事務所を経て、2001年より千葉大学、2016年より千葉大学国際教養学部。2003年よりNPO法人ちば地域再生リサーチ事務局長。2015年より千葉県横芝光町シティマネージャー。専門は、建築計画、団地再生、地域再生。都市住宅学会著作賞、業績賞受賞。主な著書：『未来につなげる地方創生』（編著、日経BP）、『人口減少時代の住宅政策』（共著、鹿島出版会）、『市民コミュニティビジネスの現場』（共著、彰国社）、『郊外 その危機と再生』（共著、NHKブックス）、『事例で読む 現代集合住宅のデザイン』（共著、彰国社）など

○講師

深谷 信介(博報堂スマート×都市デザイン研究所長)

石川県金沢市生まれ。慶應義塾大学文学部人間関係学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修了。メーカー・シンクタンク・外資系エージェンシーなどを経て博報堂入社。事業戦略/新商品開発/コミュニケーション戦略等のマーケティング・コンサルティング・クリエイティブ業務やプラットフォーム型ビジネス開発に携わり、都市やまちづくりに関しても研究/実践を行う。富山県富山市政策参与・鳥取県琴浦町参与、総務省地域人材ネット地域力創造アドバイザー、千葉県地方創生総合戦略推進会議委員、名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所客員准教授、茨城大学社会連携センター顧問他

坂本 純子(パクチー代表)

Web制作業を軸に株式会社パクチーを設立。人々が夢に向かって活躍できる働き場所と居場所づくりを目指し、企業・団体、行政官庁や自治体と連携しながら『共創』の事業づくりに努める。2014年11月「SHI TSU RAI コワーキングスペース」開店。2016年3月 千葉市「ビジネス支援センターチバラボ」運営を受託。同年4月地域の情報を発信する「千葉経済新聞」編集長に就任。2017年4月 廃校利活用事業「旧勝浦市清海小学校の運用」を勝浦市と締結。同校が総務省による「ふるさとテレワーク推進事業」採択候補先に認定される。2017年11月日本初の百貨店施設「そごう千葉コトコトコワーキング」開店する。



地域の皆様へ！

受講生募集！

千葉大学公開講座 ーカレッジリンク・プログラム@千葉2019ー

“ちば”でしかできない 暮らし・しごと・働き方スタイルをつくる







カレッジリンク・プログラムとは、地域の方と大学生と一緒にワークショップ形式で学ぶ、千葉大学独自のプログラムです。
誰でも参加可能で、修了者には千葉大学長名の修了証書も発行されます。

本プログラムでは、「千葉市」と「千葉地方圏」の地域資源を結びつけ、“ちば”でしかできない、“ちば”ならではの「新たなライフスタイル、しごと・働き方スタイル」について、ワークショップを通じてコンセプトを考え、企画し、それを実現させるための方法の提案まで実施します。特別な知識は必要ありません。皆様のご参加お待ちしております！

日程

全5回・各回 13:00～17:00

コーディネーター：鈴木雅之
千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス / 国際教養学部准教授

第1回 6月22日(土)	<ガイダンス> ・講義『“ちば”共創都市圏構想とは』講師：堺逸樹（千葉市 政策企画課長） ・講義『千葉市と周辺市の概況』講師：鈴木雅之（千葉大学 国際教養学部准教授） ・ワークショップ『“ちば（都市圏・地方圏）”の強み・弱み』
第2回 6月29日(土)	<テーマ1 “ちば”の新しい価値観・暮らしスタイルをつくる【その1】> ・講義『（仮）ひとと動くをデザインすると、まちは変えられる。』講師：深谷 信介（博報堂スマート×都市デザイン研究所長） ・講義『千葉のシェアスタイルアンケート結果』講師：鈴木雅之（前掲） ・ワークショップ『“ちば”の価値観・ライフスタイルの提案』
第3回 7月6日(土)	<テーマ1 “ちば”の新しい価値観・暮らしスタイルをつくる【その2】> ・ミニ講義『企画づくりの方法1』講師：鈴木雅之（前掲） ・ワークショップ『提案内容を実現する方法提案』
第4回 7月13日(土)	<テーマ2 “ちば”の新しい働き方（しごと）スタイルをつくる【その1】> ・講義『（仮）新しい働き方（しごと）のスタイル』講師：坂本 純子（株式会社パクチャー代表） ・講義『データを見える化する“千葉市と周辺の産業としごと”を題材に』講師：鈴木雅之（前掲） ・ワークショップ『“ちば”のしごと・働き方の提案』
第5回 7月20日(土)	<テーマ2 “ちば”の新しい働き方（しごと）スタイルをつくる【その2】> ・ミニ講義『企画づくりの方法2』講師：鈴木雅之（前掲） ・ワークショップ『提案内容を実現する方法提案』

会場 千葉大学サテライトキャンパス美浜（第4回以外）、SHI TSU RAI（第4回）
千葉市美浜区高浜3-3-1「はまのわ」3階 千葉市美浜区高洲3-14-1和紅ビル3階

対象 社会人・大学生以上。定員15名《先着順》

申込方法 必須事項（氏名、住所、年齢、職業、電話番号、メールアドレス）を明記の上、メールまたはFAXでお申込ください。後日、受講に関するご案内をメールでご連絡いたします。

【メール】 ccrc@chiba-u.jp 【FAX】 043-290-2148 《申込締切 6月13日》

※お申込みの際にいただいた個人情報は、本公開講座以外には使用いたしません。 ※締切延長いたしません。

受講料 10,000円《全5回分》

問合せ先 千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス
メール: ccrc@chiba-u.jp 電話: 043-290-2012 FAX: 043-290-2148